

第 1 回過疎問題懇談会における主な意見

(日時 平成19年9月21日(金) 10:00~12:00)

1 これまでの過疎対策と過疎地域の現状に関する意見

- かつて人口増加の中で生じた過疎問題・過密問題は、全国的な人口減少の中での過疎問題へと状況が変化した。全国的な人口減少社会となった現在の状況を踏まえた上で、地域の実態やニーズに着目した対策を講じるべきである。
- 現行法が成立してからの状況の変化としては、市町村合併の進行と過疎地域内における所得形成力の低下があげられる。
- 森林の維持が難しくなり、森林の保水力が低下していることから、水害の多発、多数の風倒木の発生という問題が発生。中山間地で安心して出産・子育てができない等の課題がある。
- 過疎地域に対する支援としては、従来は財政支援が中心となってきたが、今後はこれに加えて、過疎地域におけるマンパワー・人材確保面での支援や、行財政運営上の情報・ノウハウの共有が図られるよう支援を図る、といったソフト面での支援についての議論が重要。
- 過疎地域は、近隣の地方中小都市との連携が課題。圏域で議論をする必要がある。
- 群馬県上野村は、農業や土木を含め、ほとんどの産業を村(第3セクター)が経営している。市場原理が成り立ちにくい地域においては、産業づくりのスタートダッシュとして過疎債が有効に活用されている事例がある。
- 山間地域では、交通の便が悪いといった事情で医療機関までのアクセスが悪く、出産などの際早めの入院が必要になる事情があり、その結果として医療費が割高になる傾向があるのではないか。
- 10年ほど前から鳥獣被害が目立ってきており、その対策のために高額なフェンスを設置する必要があるなど、過疎地域の産業を守るためには様々な経費が発生している。

2 過疎地域の果たす(果たしている)役割に関する意見

- 過疎地域は、都市部に安心安全な食を提供する役割を果たしている。過疎問題の議論には都市住民を巻き込む議論が必要であり、その入り口として、食や農は大きな位置づけができるのではないか。

- 「限界集落」という言葉を安易に一人歩きさせたくないと考える。居住者は少数であっても自然を扱う「わざ」が持続的に継承される「豊かな少数社会」が息づいている、ということが、「美しく風格ある国土」ということなのではないか。
- 効率性・採算性を求めるあまり、それぞれの地域・地方ならではの価値を失ってしまった面も多々あるのではないだろうか。「心の所得」を増やそうと市民に問いかけたところ多くの共感が得られたが、その地域の宝を大事にする誇りを持つことが必要である。

3 過疎対策の必要性に関する意見

- 過疎対策がなぜ必要なのか、しっかりとした価値観・根幹を地方から中央に提示していく必要がある。
- 過疎地域への財源支援・財源確保がなぜ必要であるか。①医療・教育・福祉サービスなどナショナルミニマム確保のためという整理のほか、②地域が自立していくためには一定の財源確保が必要、③森林保全・国土保全のため、④都市とは異なる価値ある暮らしが息づいている地域であるため、などの整理が考えられる。過疎地域に対する財源支援等を行うことは、その地域のためだけではなく、都市部にとっても意味があるということを実証的に示していくことが課題。
- 人口減少社会においては、総人口・総生産額は減少せざるを得ない中で、一人当たりの取り分が増えることがすなわち発展といえるのではないか。こうした考え方を今後の過疎対策に組み込みながら、過疎地域への支援が国民的合意のもとに整理されていくことが望ましいのではないか。
- 効率性・採算性を求めるあまり、それぞれの地域・地方ならではの価値を失ってしまった面も多々あるのではないだろうか。「心の所得」を増やそうと市民に問いかけたところ多くの共感が得られたが、その地域の宝を大事にする誇りを持つことが必要である。

4 今後の過疎対策に関する意見

- 都市と地方の格差是正と、地域の内発的発展の「二兎を追う」ことが大変重要であり、今後の施策はどんな小さな施策であろうとも、この2点について常に考えなければならない。例えば、格差是正のためにハード整備を行う場合に、その設計や運営に当たり、住民参加を徹底的にプロセスに埋め込み

住民力を強化する、という仕組みとする必要がある。

- 地域特有の環境資源を生かすために、地域が抱えている田畑や山、有形の寺・お宮や、無形の伝統芸能などを包括して守る制度、新しい仕組みを設けることが必要ではないか。また、その運営の母体として、地域で活動する人たちや住民自治組織を活用することが必要ではないか。
- みなし過疎や一部過疎など、市町村合併によって過疎関係市町村が多様となっており、現行の過疎法では主たる支援の対象を市町村としてきたが、市町村ではない対象を考える必要があるかもしれない。
- 地理的な条件が不利であり、企業の誘致等も非常に難しい中で、定住人口よりもむしろ交流人口を増やす必要がある。観光を足場とした交流人口の確保、地元で生産され、あるいは製品化されたものの活用、大都市にしながら「特別村民」として村のイベントや地域づくり活動などへ参加してもらう取り組みなどを講じている。
- 過疎地域に対する支援としては、従来は財政支援が中心となってきたが、今後はこれに加えて、過疎地域におけるマンパワー・人材確保面での支援や、行財政運営上の情報・ノウハウの共有が図られるよう支援を図る、といったソフト面での支援についての議論が重要となる。
- 森林保全や廃棄物対策について、過疎地域に対する支援のあり方を検討する際には、各論として位置づける必要があるのではないか。
- 過疎地域内で既存の施設の活用を考えたときに、個別法等の様々な縛りのためにうまく活用できない、使い勝手が悪いなどの事例もあり、規制緩和に取り組むことも必要ではないか。